

「くちないつこ推進事業」 ～自然豊かな口内町だからできることを～

○エントリー団体

口内町自治協議会

○コラボメンバー(役割分担)

きたかみ冒険遊び場づくりの会

:遊び場づくりのサポート

AtelierRik.(アトリエリック)

:子どもへのアート体験活動の提供



○事業への思い・解決したい課題

「子どもたちに多様な触れあい(地域・人・自然など)を経験してもらい、多様な気づき(協力しあう、自分たちで考える)や他者への感謝、あいさつなどをしっかり出来る子を育みたい」「過疎化が進み口内小学校閉校後の地域の活力向上へ向けた取り組みとして、地域住民と子どもたちが安心して顔が見える関係づくりをしていきたい」という思いをもとに活動を進めています。

○コラボの経緯

口内小学校閉校に伴って、令和5年4月から地域と子ども達の顔が見える関係づくりとして口内町自治協議会主催で居場所の提供「寺っこ屋活動」が始まり、世代間交流やまちたんけん等を実施しました。

そして、令和6年4月からは「寺っこ屋活動」と、閉校前から毎年行ってきた地域住民・企業等が講師となり子どもたちが学ぶ事業「きらめき活動」を統合し、「くちないつこ推進事業」として活動を進めています。

この実施にあたっては、「きたかみ冒険遊び場づくりの会」は(が)、子どもの自然体験&遊びを生み出し見守るプレーワーカー、保育士の派遣、「AtelierRik.(アトリエリック)」は(が)子どもへのアート体験活動の提供をしています。

それぞれの思いが一緒になり、互いに足りない所をカバーしていきながら、子ども達がさまざまな体験を通して学べる機会を協働でつくっています。

○具体的な取り組み内容

地域内交流イベントとして、令和6年10月21日に「里山探検&自然で遊ぼう」を参加者11名で実施。火起こし・かまど作り体験・ネイチャーゲーム(自然物を活かしたフィールドビンゴ遊び)を行いました。

また、10月26日の町内文化祭では、「ネイチャーゲーム」「アルコールインクアート」を実施し、10名の子ども達が参加しました。

○コラボの効果

・プログラムを進める中で、物事に対する感謝の思いが芽生え、子ども達の知育や自立心や自己肯定感(やればできる!)の向上につながりました。そして、単独ではやれることが限られますが協働することで1×1が3にも4にもなる相乗効果が得られました。

・地域施設を利用することにより施設利用料の経費削減となり参加費が抑えられました。

・子どもの遊びについて専門に学んできたネイチャーゲームリーダー・プレーワーカー・保育士の見守りの中で安心して子どもを預け、思う存分遊び込むことができました。

・アート活動を専門に行っているアトリエリックは子ども達自身、正解や不正解のないアートを通して知識や達成感、自己肯定感が芽生え、またやりたいという意欲につながりました。

○今後の展開

子どもにとって、地域全体を学び舎と捉え、口内の自然などの生きた教材を活用し、学校だけでは得られない知識や経験を通し、これからの時代を生き抜く力を育成していきたいと思えます。そして事業推進にあたっては、地域内の事業と連携することで、相乗効果が生まれることを経験し、この取り組みをさらに進めていきたいです。

これらの取り組みをとおして、あらゆる事象に対して感謝の思いが芽生え、地域や自然、そこに暮らす人への寄り添いが生まれ、循環していく地域力を育んでいきたいと考えます。